

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
グローバル展開プログラム（研究テーマ課題設定型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		グローバル人文学			
研究テーマ名		アジア歴史空間情報システムによるグローバル・ヒストリーの新研究			
研究代表者	所属機関	国立大学法人 東京大学			
	部局	大学院人文社会系研究科			
	役職	教授	氏名	水島 司	
委託研究費		単位：千円			
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度		
8,144	20,000	17,800	12,250		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本研究の目的は、18世紀から20世紀のアジアの「開発」に焦点を当てたグローバル・ヒストリー研究を推進し、その分析ツールとして「アジア歴史空間情報システム」を構築・活用することによって、学問分野横断型の「グローバル人文学」を具現化することであった。事例としてとりあげた地域は、エジプト、ウズベキスタン、インド、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、中国、台湾、朝鮮であり、アジアの広い地域をカバーし、それら諸地域の研究に携わる内外の研究者が本研究に参加した。個々の研究テーマは、植民地都市形成、近代農業開発、企業の活動と領域、金融ネットワーク、疾病と環境、交通インフラ整備などであり、いずれも共通の手法として歴史地理情報システム（HGIS）を援用した。他に、HGISの特性を活かし、軍事行動、族譜研究などもテーマとして加わった。これらの取り組みは、19世紀以降アジア全域で進む土地開発と人口増大、それらの開発を国内市場から世界市場へと結びつける鉄道を主体とする交通インフラの発展、開発原病でもある疫病の線的・面的広がりとそれに対する都市および保健衛生インフラの整備、開発地とそれらの市場を結びつけるために成長してくる都市とそこで活動する企業群の機能と発展、流通する商品の価格の連鎖などの局面をそれぞれ解明しながら、全体として、グローバル・エコノミーに統合されていくアジアの生産から消費に至る過程とそれに携わる人々の動きの中に、近代世界の形成におけるアジアの役割をアジアの視点から再評価することをめざした。

本研究はまた、アジア歴史空間情報システムを確立する一方で、それを駆使した上記のテーマに関する先駆的な研究を国際会議や内外の学会で提示することを目的とした。プログラムのウェブサイト上で、実施している研究会の報告や収集資料の共有、GISで活用可能なアジア地域のデータについての情報提供を行うことと並行して、プログラムの参加者は、世界経済史会議（WEHC）、アジア世界史学会（AAWH）、アジア歴史地理情報国際会議（ANGIS）、史学会をはじめ、ヨーロッパやアジア、日本で開催された各種国際会議や学会、内外での研究会、講演などを通じて多くの研究報告を行った。とりわけ、本プログラムの国際活動の中心に据えられている第5回ANGIS会議（本年12月にフィリピン国立大学で開催）には、開催地のフィリピン以外から50以上の報告希望が寄せられており、本プログラムの活動が国際的に認知されつつあることを示している。